

かは不明であったので、この点を明かにすべく本実験を行った。

2. Wistar 系雄シロネズミ 5 匹を一群とし、これに Forker らの基本飼料より FR を除いたものに B<sub>2</sub>-But を 1 日 1 匹当たり FR としてそれぞれ 50 $\gamma$ , 100 $\gamma$ , 200 $\gamma$ , 400 $\gamma$  ずつコンスターチに添加して 5 日間にわたって各群に与え、24 時間後の糞便および尿を連日実験動物毎に採取してルミフラビン蛍光法によって FR 量を測定した。

3. 糞便中の B<sub>2</sub>量は、投与量が増加するにつれて多くなるがみかけの吸収量は、投与量が多ければ多い程増大する傾向を示した。

◎A—2 ビタミン B<sub>2</sub> 脂肪酸エステルに関する研究 (XX) B<sub>2</sub> テトラ酪酸エステル投与におけるシロネズミの糞便 および 尿中 B<sub>2</sub> について

金城学院大 ○水島 裕子  
名古屋大医 小林ミサヲ

1. 脂溶性ビタミン B<sub>2</sub> 誘導体をうる目的で合成されたリボフラビン (FR) の脂肪酸エステル数種のうち、B<sub>2</sub> 酪酸エステル (B<sub>2</sub>-But) が体内で最もよく加水分解され、栄養効果も高く B<sub>2</sub>-But を FR として 10 $\gamma$  程度 B<sub>2</sub> 欠乏シロネズミに投与すれば、FR 10 $\gamma$  投与の完全食投与シロネズミとほぼ等しい体重の増加を示し、50 $\gamma$  与えたものはさらに発育がよいことがすでに判明している。しかし、果してどの程度の B<sub>2</sub>-But 量が体内に吸収される